オーディオ実験室収載

カートリッジの比較試聴(8)
—O 氏所有カートリッジの比較試聴—

1．はじめに

前報(7)では、M 氏所有と拙宅のカートリッジ及び借用カートリッジの比較試聴を自宅で行いましたが、先日の M 氏邸訪問時に O 氏がいろいろなカートリッジをお持ちのことが分かりましたので、拙宅で試聴させていただくことになりました。

2．カートリッジの比較試聴の試聴条件

今回比較試聴するカートリッジは、下記のもので、時間の許すかぎり聴いてみることにしました。

左から IKEDA 9, FR-7fz, FR-7

左からアントレ EC-45,アントレ EC-30, Ortofon GOLD

スピーカーの FAL C90EXW は、これまでずっと、しなの音蔵オリジナル 300B シングルアンプを使用して聴いていただきましたが、FALC90EXW 駆動アンプの選択(2)の結果から、今回は目先を変えて豊中オーディオオリジナル PX25 シングルアンプで

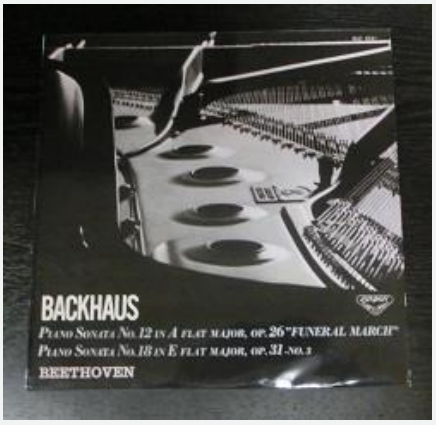
駆動することから始めました。さらに途中から 300B に替え、最後に JBL4350A のシステムも聴いていただきました。

３．カートリッジの比較試聴の試聴結果

始めにこれまでとアンプを替えたことから、耳馴らしで BS 録画の再生でピアノと弦を聴いていただき、さらに PrimeSeat から 5.6MHzDSD のストリーミング再生を行いました。これまで 300B で聴いていただいたこともあって、ややナロウレンジで古風な音がするとの感想がでました。

カートリッジの比較試聴は、現用の ZYX R100-EX と Byrer のトランスの組みあわせから始め、TELEFINKEN の DAS ALTE WERK のバッハを聴いていただきましたが、なるほどこのような曲と演奏には PX25 のアンプはマッチしていると納得していただきました。

次に M 氏持参のバックハウスのベートーベンの盤を替えて聴いてみましたが、後の方がクリアーになることは分かるものの、M 氏は納得されない様子です。ここでカートリッジを O 氏持参の SPU GOLD に替えてみたところ、ZYX R100-EX はやはり設計者がおなじ MC-20 の系統、SPU GOLD は G シェルの SPU の流れであると理解できるとの感想がでました。



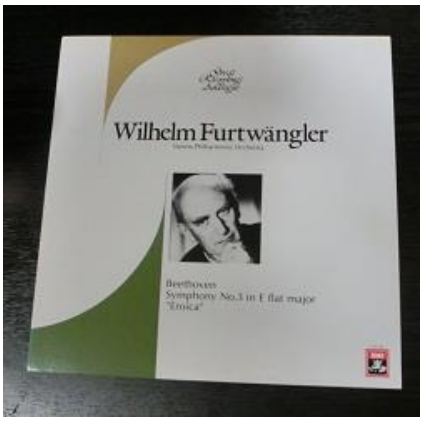
次いでO氏のリクエストで幻想をかけましたが、SPU GOLDを常用されているO氏も、やはりこの曲にたいしては華やかさが足りず、音が抜けきらないところに納得されていない様子でした。ここでアンプを300B、トランスをOrtofon純正のST-7に替えたところ、パリコンセルトヴァトアールのブリリアントな色彩感が出てきてO氏も納得のご様子でした。

続いて、M氏持参のクライスラー曲集と当方のグルミオーのバッハをかけましたが、弦の伸びやかさとチェンバロの分離が良いとの感想がでました。

ここで、SPU GOLDと当方のSPU Synergyを比較してみようということになり、SPU Synergyに替えたところ、 SPU GOLD のバランスの良さに対して、SPU Synergyでは押し出しがよく、迫力がでて両者の設計思想の違いがよくわかるとのことでした。

さらに、O氏ご持参のカートリッジを順次聴いてみようということになり、まず、IKEDA 9で先ほどの幻想を聴いてみましたが、一転して切れ味がするどく、細部まで抉り出すような音に変わりましたが、O氏はすこし高域がしゃくりあげるようになったとことが気になるようでした。そこで次のFR-7fzで幻想を聴いてみましたが、IKEDA 9よりはバランス良く聴けました。そこでM氏がfoQシートを取り出し、IKEDA 9のチューニングをしてみたいと提案し、シェル周りにfoQシートを貼る対策後ふたたびIKEDA 9に戻しましたが、高域のくせが後退し、切れ込みの良さも残

しながらバランスも改善されました。
次にアントレ EC-45 で幻想を聴いてみましたが、バランス良く聴け、かつアントレ独特の繊細感が良くでていました。O 氏は、Ortofon GOLD 以外ほとんど聴いていない上記の 3 種のカートリッジの特徴が分かったことで満足されていました。
さらに、モノ用カートリッジも聴いてみようということでM氏持参のOrtofon CG-25 DI Mk2 とベンツマイクロ S-M を順次聴いてみました。まずは、お馴染みのシュタルケルのコダーイとフルトベングラー／ウイーンフィルの英雄を聴いてみました。
Ortofon CG-25 DI Mk で聴くシュタルケルのコダーイは迫力満点でしたが、ベンツマイクロ S-M に替えると、さらに、どぎついまでの迫力が出てきました。ベンツマイクロ S-M でのフルトベングラーは、フルトベングラーフアンの O 氏にはたまらない様子でした。



モノ用カートリッジを聴いた後、JBL4350A に繋ぎ替え、すこし BS 録画の再生で耳馴らしをした後、シュタルケルのコダーイと諏訪内晶子とヤンケの CD を順次聴いていきましたが、Sopranino と ES-105 のスーパーツイター―を付けないままで、BS 録画の再生でも、CD の再生でも十分ではないか、JBL の真価がでてきたのではないかという M 氏のコメントがありました。

JBL の系統のアンプ端子とスピーカーの配線に foQ シートを貼ったり、RCA のショートピンを追加したりした効果が出ているものと思われます。諏訪内晶子の CD を聴いた後、GPS-777 から EMT-981 と CCV-5 にクロックを供給する 2 本のクロックリ

ベラメンテの BNC ケーブルに M 氏が foQ シートを追加で貼ったところ、高域の伸びが向上したように感じました。また、JBL でも諏訪内晶子のストラディヴァリウス「ドルフィン」とヤンケのストラディヴァリウス「ムンツ」の音色の違いまで分かるようになったのは、これまでの種々の対策の収穫と思われます。

４．まとめ

O 氏持参のカートリッジのうち 4 機種と M 氏持参のモノ用カートリッジ 2 機種、当方のカートリッジ 2 機種を駆け足で聴いていきましたが、それぞれの特徴は把握できたと思います。しかし、それぞれの最適条件の探索は課題として残りましたので、これについては機会を改め、まだ聴いていない O 氏所有のカートリッジも含めて、M 氏邸でひきつづき試聴することになりました。

その他、FAL C90EXW 駆動アンプの音色の違いや JBL4350A の対策の成果などを確認していただけました。

以上